

Fさんの場合

全盲のご夫婦、息子さんが知的障害を伴う自閉症（当時小1）

居住地：仙台市宮城野区

インタビュー日：2023年11月9日

お話：Fさん

聞き手：橋本武美

橋 今日、自閉症の息子さんのお母さんのお話をお聞きします。

F はい。

橋 当時は何歳でしたか？

F 小学校1年生の終わりですね。3月だったから。

橋 小1だったんだね。息子さんは、その時は小学校とか支援学校とか、どこでした？

F 小学校の支援学級でしたね。

橋 支援学級の小1だったのね。地震が起こった時ってどうでした？一緒にいた？別々だったの？

F 一緒にいたんです。うち娘がね、まもなく4歳になるっていう時で……。

橋 妹ちゃんねー。

F そう、妹が4歳。そしてその時たまたま娘も息子も一緒に。

橋 あー良かった。

F そう、学校に、なんかのあれでハンコを押しに3人で歩いて行って、その帰り道に、もうちょっとでお家に着くっていう時に、外で。家の近くのお外で。そして、駐車場に停めてある車がガタガタガタガタって、何の音だろうと思って、そして揺れが来て、あ、地震だーってなって。

橋 その頃は盲導犬はいなくて、白杖だったのかな？

F そうなんですよ、白杖で。白杖で、まあ右手左手……。

橋 ね、だって妹ちゃんが4歳で、息子さんが小1だったんだもんね。

F そう。

橋 ビックリしたね。

F ビックリした。でも逆に家の中じゃなくて良かったのかもしれないと思って。揺れがまず3回ぐらい続けて来て、収まって。家は3階建てのマンションの2階だったから、行ってドアを開けたら玄関がいろんな物で散乱してて、あーってなって。

橋 物が落ちてて？

F 物が落ちてて。たぶんこれは靴は脱がないほうがいいんだろうなって思って、「いいよいいよ、靴のまんまでいいよー」って、いざ中に入って行ったら家の中がぐちゃぐちゃになってて、あれが倒れてる、これが倒れてる……なんか知らないけどお醤油の匂いがするぞみみたいな、きっと散乱していろんな物がこぼれててね。

橋 その時は、少し光が分かるぐらいか、もう少し見えてた？

F 私の視力はね、その当時でもたぶん左はほぼ見えなくて、右が0.05ぐらいはあったかもしれないかな、それぐらいはあった時期かもしれないですね。だけど、まあ視野は狭いからあれなんだけれども……。

橋 でも日常は、物が同じ所にあるから暮らしやすくしていたんだよね。それがぐちゃぐちゃになって？

F そうそう、そうなの。ぐちゃぐちゃになってて、まあでもとにかく座れる場所を確保しなきゃいけないから、倒れてる物とかは倒れた状態のままもう隅っこに寄せる。とりあえず隅っこに寄せよう寄せようって言って、みんなですっていうか3人で寄せて、それで安全で物も落ちて来ない、倒れて来ない場所にソファを置いて、まずそこに座れるよっ

ていうところを作って。でももう断続的に地震が来るから……。

橋 何度もあったよね。

F そう何度も何度も。そして電気がつかない、テレビがつかないだったんだけど、うちはなんとラジオがあったの。その時はもう既にラジオが。

橋 電池？

F 電池のラジオがあって、ラジオで情報が取れたのがまず良かったのと、あと DVD プレーヤーの充電が満タンだったところがまあ良かったから、それで気晴らししてば変だけど、気持ちを落ち着けるのにその DVD 観れたりしたのが、まあ良かったかなー。

橋 電気は停電だし、水は？

F 水はね、いくらあったのかな。お茶とかは常に作って、もうお茶は必ず。

橋 もちろん水は止まったもんね。

F 止まったからね。

橋 ガスもね？

F ガスも止まってたから。

橋 備蓄は少しあった？

F 備蓄品っていうのは、少しあったかもしれない。どこかでもらった何かがあったんじゃないかな、たしか。ビスケットみたいなやつと、乾パンだね。地域の何かでもらったやつだと思うんだけど、それがあったから。あとはご飯は、朝炊いたのがまだ残ってたりとか。

橋 ジャーに入ってたの。うんうん。

F うん、あとなんか予め焼いてたシャケがあったりとか、そういうのだったから、まあその日とか次の日くらいまではまだ何とかあったって感じで。

橋 電気は割と早かったかな。1日2日ぐらいだったよね？

F そのぐらいだったかなー、うんうん。

橋 電気がつけば、暖房とかも。

F うん、そうだね。あれ1日、2日だったのかな、もっと長く感じたけど。とにかく寒いから上着とかは脱げないで、ずっと上着を着てたっていう印象。で、電気がついてから、ストーブとかつけたかなー。

橋 電気がつけば、何かにお湯沸かすとか、そういうのもできたかしら。

F あ、でも水がまだその時は出なくて。

橋 その時そういえば、お父さんは？

F うちの家族はね、私がまず見えないけど主人も見えないわけ。そして、息子が自閉症だから、で、娘は小さかったから、とにかくね、避難所にはまず行けないから。

橋 そうだよなー。

F そう、まず避難所には行けないから、とにかく家で。

橋 それは、じゃあ考えなかった？

F 考えなかった。で、主人は石巻のほうに仕事に行ってたから、2日ぐらいは帰って来れませんでした。

橋 石巻だったの。連絡は？

F 一番最初に1回だけ連絡が取れて、電話もすぐ使えなくなっちゃったから。

橋 そうだね、そういう方が多い。すぐは1回連絡がついて、そのあと連絡が全然つかなくなったって。

F そうそう。そんな感じでうちも、とにかく無事であるっていうのだけ。

橋 1回連絡はあって。いつ頃お父さんは来れたんだろ？

F 3日後ぐらいかな、知り合いの人がたまたま石巻のほうに、自分の弟が心配で見に来て、その弟さんは大丈夫で、その弟さんとうちの主人が一緒にいたから、じゃあ自分は泉区の自宅に帰るから送っていくよってなって、一緒に乗せてもらったから、帰って来れた。

橋 車で帰って来れたんだね、乗せてもらったんだね。

F 乗せてもらって。

橋 そう、じゃあお父さんがいなかったのは2日間ぐらいって言っても、ねえ。妹ちゃんは4歳だからそんなに、

何かが起きたのはもちろん分かるし、ぐちゃぐちゃになってるのはもしかしたら妹ちゃんが一番片付けたのかもしれないけれども……どうだった？まず息子さんの様子はどうだったかな？怖がってたとか、逆になんか笑っちゃってたとか。

F うーん、なんだろうなあ、よくは分かってないけれども……。ずーっとその地震の映像を、あれは何で見てたのかな、テレビとか何かで見て確かめてるっていうか、ずっと地震の映像を見てた。怖いから見ないじゃなくて、見る。

橋 あー。

F ずっと地震の映像ばかり見てて。うーん。

橋 それででも、納得じゃないけど……。

F 納得じゃないけど、そう。そして、そこからもうラジオを夜消せなくなった。もうずーっとラジオ、夜はラジオをつけてる習慣がそこでできちゃって。やっぱり怖くて。そのチャランチャランがあって地震……。

橋 何か音が始まって、揺れるっていう。

F 鳴ってから揺れるっていう……突然揺れるのがもう怖いから、先にそのチャランチャランが欲しいって感じで、だから今は「ゆれくるコール」っていうのをタブレットに入れて持ち歩いている。いつでも揺れる前にその音が欲しい、これから揺れるんだっていうその心の準備が欲しいっていうので。だからもうそれからはどこに行くにもラジオを、私もそうだけど携帯のラジオは必ずバッグに入れてたりとか。

橋 そうだね。お母さんもやっぱり音が欲しいし、音でないと困るからね、音でしょう？

F そう。音が欲しいし、情報がないとダメだから。

橋 息子さんもやっぱり音で欲しい。音で一番情報がよく分かって、これから揺れるんだなって。

F 音が欲しい。急に揺れるのは心構えが……。地震が怖くて心配だから、音が欲しい。もともとっていうか、うちは本当に聴覚過敏だから、音が怖いはずなんだけれども。

橋 小さい頃から聴覚過敏あった？

F 聴覚過敏出た。もう小さい頃は本当に犬の鳴き声とかもダメだったし、繰り返し音が苦手で大変だったんだけど、それ以上に地震の揺れがもう怖いから、音が怖いけれども先に音が鳴ってから揺れてほしい。

橋 だよ。その時は小1だから、避難訓練もそんなに経験してなかっただろうし。泣いたり、パニックになるみたいなことはどうだった？

F 無かった。娘のほうが泣いてたかなー。4歳の娘のほうが泣いてて、息子は泣いてなかった。

橋 そうだよ。ちなみに、妹ちゃんは普通学級でずっときてるでしょう？

F きてる。

橋 その時は、気がかりなこととかは特に？普通のお子さん？

F そう、普通の子どもで。

橋 じゃあ結構助けてもらった？お母さんのこととか助けて、助けてっていうか……（笑）

F うーん、なにせ4歳で、ちょうどその時とびひにも罹ってて。それで保育園を休んだから3人一緒にいたんだけど。

橋 あ、そう。保育園を休んだのね、その日。

F 休んだの。とびひで休んでて、やっぱり感染っちゃいけないっていうので。その前の前の日くらいはたしか保育園に行ったんだけど、包帯とかは巻いてたけどやっぱり感染っちゃいけないっていうので、やっぱり休みますって。

橋 感染るからね、とびひ。

F うん。でもそれこそうちは、3人いつも一緒だった。とにかくいつも一緒で。だから息子を迎えに行きがてらハンコを押しに行ったけれども、娘も一緒に行ってて。

橋 学校も近いしね。

F うん、学校も近いし。

橋 歩いてすぐのところだし。でもその近い距離なのに、家に入る前に揺れが始まってね。だけど、たしかに家の中だったら、そこにいてみんながそれぞれの場所に座ってて、物がダダダダって落ちてくるとか、そういうところじゃなくて良かったかもしれない。

F そう、いなくて良かったと思う。いたら逆に、家にいられなかったかもしれない。いられなくなったかもしれない。だから外で遭って、揺れが収まって、家の中に入れたのは良かったかもしれない。

橋 まず片付けて、お家でちょっといようねーって。電気がつかないんだね、でもラジオはあるねって。懐中電灯とかもあったのかな？

F 懐中電灯もあった。あったけど、まあ私は見えないけど……。避難所は、息子もみんなと一緒にいるっていうのは難しいし、私自身も見えないから、知らない場所だと介助がなければトイレ一つ行くにも大変だったと思うから、家がしっかりしてたから、かえて家に入れられたのがよかった。そしたら別に見えなくても、私は家の中であれば全然電気なくても歩けるから。

橋 でも息子さんと妹ちゃんのために灯りは、まあ懐中電灯ぐらいは。

F 懐中電灯ぐらいはあったねー。

橋 で、食べる物もあって、何とか暖かくして過ごして、お父さんが戻ってくるまでは……。

F そう、待ってて。

橋 じゃあ、買い物とかも行けないもんね。お父さん来るまでは行けなかった？

F そう、買い物も結局、近くのスーパーとかにたしか行って、やっぱり何十分も待ったりとかして、でもそのあいだにトイレに行きたくなっちゃったりとか。まあでも息子は頑張っても並んだほうかなー。

橋 本当。えーすごいね。何日目ぐらいから買い物とかはできたの？

F 買い物、何日目だったかな。

橋 お父さん来てから？

F お父さん来てから。

橋 合流してから。

F うん、合流してから。

橋 じゃあ、家にお父さんと誰かがいて、みたいなの？

F ちはね、全員で動いてた。やっぱりとにかく離れないのが一番。うちの主人も全盲だから、一人でいて何かあるとこれまた大変だから、ちはととにかく一緒にいるのが一番安全、どこに行くにも。

橋 なるほどー。4人みんなで。でもたしかにそうだよ。

F うん。そしてちはお買い物に関しては、何回も出なくて済んだのは、小学校で炊き出しみたいなのがあったんだけど、私達は動けません、4人一緒に動くしかないから、誰かが一人取りに行くっていうのも無理だから、小学校の先生が食べ物を届けてくれたの。

橋 あー、知ってる先生が？

F 学級担任の先生が。

橋 息子さんのことを知ってて、家族のことももちろん分かってるから。

F うん、家族のことも知ってて状況も知ってて。

橋 困ってるだろうなーって。

F っていうので届けてくれたの。それがやっぱり助かったかな。あとはお友達とかも入れ替わり立ち替わり「大丈夫ー？」とかうちに立ち寄ってくれて。

橋 困ってないー？って。

F 「困ってない？食べ物大丈夫？」とか。あとおじさんが「水をタンクにもらったからあげる」とかって持ってきてくれたり。

橋 あー、ありがたかったねー。

F ありがたかった。ちは逆に誰も車を運転できる人がいないから、ガソリンは一切困らないっていうか。車がいないからガソリンは全然関係なかったんだけど。

橋 でも、お水はねー、重いし。

F うん、お水はおじさんが運んでくれた。

橋 良かった。

F うんうん、良かった。

橋 でもそれも、周りの人に知っててもらったところも、いつもみんな歩いてて、それこそ息子さん学校入った後とかも、私も見かけたことがあるけれども、下の子を連れて送り迎えっていうかね、そういうのもやってたし。

F うんうん。そうそう。

橋 お母さんは本当に活動的で、PTA とかもやってたもんね。

F うんうん、やってた。

橋 学校も割と近いところに。

F うん、近かったから。

橋 距離的な近さもあるけど、学校にも分かってもらってたっていうのもあって、周りの人も分かってくれてた人がいっぱいいた。

F うん、いっぱいいて。ほんっとに周りの人に助けられた。だからたぶん避難しなくても済んだ。まあ家がしっかりしてたのもあるけど。もしこれが半壊とかしてて避難するってなったら、ちょっと想像できないけれども、んー、どうだったんだろうって、本当に。

橋 そうね、避難所は最初から考えられなかったし。

F 考えられなかったねー。

橋 例えば、もし今そういうことが起きた時に、なかなかやっぱり今でも難しいは難しいよね？

F なかなか難しい。

橋 今、息子さんは？

F もう 20 歳。

橋 それでもなかなかね、現実的には難しい部分が多いよね。

F 難しいかなー。

橋 気を遣うしね、周りに気を遣っちゃうもんね。全部助けてもらわなきゃならないっていうのが。

F そう、こっちがやっぱり周りにも気遣う。誰かがトイレ行くたびに案内してもらってとか、「じゃあ皆さんご飯取りに来てください」とかって言われても、なかなか行くのが難しかったり。でも今は避難所も盲導犬を受け入れてるから。まあ本来当たり前だけど……。

橋 結局 3.11 があったから、その時にほら、ペットちゃん達は一緒に行けないとか、別の場所にとか、置いてこなきゃいけないとか、いろいろ少しずつ考え始めたもんね。

F うんうん。

橋 当然盲導犬はペットじゃないから。もちろん視覚支援の部分だけじゃなくていろんな介助犬がいるんだけど、どんな介助犬でもペットではないので。家族と一緒にいるのが当然なんだけれども。

F そう、常に家族と一緒に、うんうん。

橋 そこもちょっとずつかな、認知が広がってきた感覚はあるかな？

F うん、ちょっとずつ、ありますね。

橋 でもそれは本当にね、お母さんとかがすごくいろいろ頑張ってきたからっていう部分もあるよー。

F そうだねー。

橋 話戻って、息子さんはそのあと、学校がいつ始まるか分かんないぐらいの感じだったでしょう？もちろんいつもと違う不便な感じもあるし、みんなで一緒にこうやって並んだりとかしなきゃならないとかね。その暮らしの中ではどうだったかな、変化はあった？すごく大人しくなっちゃったとか、逆にちょっと粗暴になったりとか、何か変化はあったかなあ？

F んー、地震があったから静かになったとか、地震があったからハイテンションになったとかっていうのはないけれども、やっぱり常に地震の動画を何度も見てた。不安だから、怖かったから……。

橋 怖かった、驚いた、何だろう……って。何かが起きていて、我慢しなきゃいけないんだなみたいなこととか、何かが起きてるぞっていう、普段と違うことを受け入れなきゃならないんだなみたいな、彼なりにたぶんすごくその時あったよね。

F うんうん、あったと思う。

橋 じゃあパニックとかは無かった？

F 暴れ出したりとかは無かった、うん。

橋 頑張ってたね（笑）

F 頑張っていましたね。

橋 小1なのにな、偉いなー。すごい偉いと思う。うちはその時小4だけど、並べなかった。前の人を蹴っちゃう時期だったので（笑）

F あー。そっか。やっぱり好きな時計があったのと、ラジオがあったのと、DVDの電池が残ってたのは良かったかな。

橋 その時一番困ったのは？避難所はまあ行けないけど、

F 行けない、うん。

橋 でも不幸中の幸いで、家にはいられた。

F うん、いられた。

橋 みんなの一番安心できる家にはいられて、お父さんも3日後ぐらいには合流できて、いろんな人に助けってもらえて。そっか、人が来るから情報も来るもんねー。

F 情報も来るから。

橋 「学校はこうだよ、まだまだ始まんないけどいつ頃みたいだよ」とか、情報も入る状況かな。

F あったあった。担任の先生は毎日来てくれたかなー。

橋 毎日来てくれたの？

F うん、毎日ご飯運びがてら「変わらない？」とか来てくれたかな。

橋 あー、それはありがたいね。

F ありがたかったー。

橋 それもでも、人によっての部分はあったかもしれないから。その先生だからやってくれたことかもしれないし、ねー。

F うん、そう確かに。そうだと思う。

橋 たぶん息子さんにもすごく良かったよね。

F 良かったと思う。

橋 先生が毎日顔出してきて。

F そう。そしてとても懐いてた担任の先生だったから良かった（笑）

橋 良かったー。逆だったらね（笑）そっか。その時一番困ったのって何だろう？

F 一番困ったのは何だったのかなー。

橋 妹ちゃんは逆に、色々見えるからワガママ言ったりとか、あれ食べたいこれ食べたいとかも？

F そんなワガママも言わずに。言わなかったねー。

橋 とびひも大丈夫？

F 結局とびひはもう薬塗ってじっとしてるしか、じっとしてるって言うのも変だけど、他に何も無いから。そしてうちのマンションは、ガスが都市ガスじゃなくLPガス、プロパンだったから。

橋 ああそう。

F それがまたすごく助かって、お風呂をお友達に開放しました。

橋 あー、お風呂入れたんだねー。

F 入れたの。で、「うちお風呂入れるからおいでー」って言って、お風呂入りに来ましたね。

橋 うちもね、やっぱり自閉っ子のママ友で、そこそこ近いおうちの人が「プロパンだから入りにおいでよ」って言ってきて、お風呂入りに行きました。

F うんうん。寒いからジャンパー着たりとかして、このお洋服いつまで着るのとか……毎日全部取り替えてたのが、これいつまで着るの？ってなっちゃったりはしたね。

橋 そうよねー。女の子だから特に。

F うん。まあ息子もそうだね。いつもは毎日取り替えるお洋服が、寒いから着ててって（笑）

橋 だってもうね、お洗濯もねえ。

F 洗濯もずっとできなかったしね。

橋 電気が来ないと洗濯機がねー。でもお風呂に入れたのは、ね、あったまれたし。

F あったまれたからねー、良かった。

橋 良かった良かった。良かったことはそういうことかな、周りの人、いろんな人に助けてもらったのと……。

F うん、助けてもらったことと、比較的電気が早めについたのと、プロパンだったこと。プロパン高くて嫌だなーとか文句ばかり言ってたけど、こういう時は助かるねって言って（笑）あれ？水ってどれぐらいで……。

橋 水、どのぐらいだったかなー。結構困ったよ、うちは。

F 電気が先に来て、水は……。

橋 電気は早かった。本当に早かった。

F 早かったよねー。

橋 ほかの方に比べたら電気は早かったのかも。2日ぐらい。水はどのぐらいだったかなー。

F どのぐらいだったかしらねー。

橋 困ったよ、やっぱり。うちはマンションの8階で、エレベーターももちろん止まってたし。

F ああーそっか。

橋 息子と2人だけれども留守番ができないし、置いていけないし、水を汲みに行けなかったから。もちろん直後にお風呂にダーッと溜めて、トイレを流せるように溜めていたけれども、飲み水のほうが底をついていってしまうから。うちはお水は最後本当に、ご近所の方をお願いして、「これこれこうで、うちは並べなくて水を汲みに行けないので、申し訳ないけど」ってお願いした。何日だったんだろう。私もはっきり分かんないな。ガスはものすごく遅くて1ヶ月ぐらい経って、お風呂がとって困った。

F 大変だったねー。うちは追い炊きができないお風呂だから、何かがあってもいいようにお風呂の栓は、お風呂のお湯を入れる時に抜くっていう習慣があったから、トイレの水は大丈夫だったの。でも本当は流しちゃいけないんだよ。管が壊れてるとダメだからね。でもね、知らないでうっかり流してた。

橋 へー、でもその時は分かんないよねー。

F 分かんなかった。普通に流してて。

橋 みんなそうだったと思うよ。よっぽど本当に備えて簡易トイレみたいなものを用意してた人も中にはいたとは思うけど、やっぱり皆さん川から水を汲んできてトイレ用にしてたって、よく聞くよ。

F あー。うちはその簡易トイレの準備も全然できてなくて。でもあれも練習してないと無理かなーと思ってて。とりあえず今は、やっぱりあの地震があってから備蓄ってのを考えてて、簡易トイレもちょっとだけ用意したり、最悪の場合を考えて大きいビニール袋を買って、トイレに嵌められるようにしたり、その時はそうしようねーってしたり。

橋 ちなみに今も同じマンションに住んでるんだもんね？

F うん。備蓄も、お水はやっぱり飲み水。うちは盲導犬がいるから、お茶作ってもお茶は飲ませられないから、やっぱり水を買っておかないと大変だっていうので。

F Fさんは地震の時には白杖だったんだけど、そのあとね、何年前ぐらいからかな、盲導犬と一緒に暮らしていますね。

F そう。今から7年くらい前かな。

橋 7年前ぐらい。うんうん。

F 備蓄もね、ワンちゃんの分を考えて、フードも早め早めに注文したりとか、水もちゃんと買っておかないと、いざという時に「あれ、無い」ってことになっちゃうから。

橋 7年一緒に過ごしている盲導犬なので、人と一緒に年月も経つので、だんだんね。盲導犬の「ヴェルデ号」って言って「ベルちゃん」って私も呼んでるんだけど。ワンちゃんは3倍4倍先に年を取るから、もういいお歳感覚よね。

F そうねー、本当。

橋 ねー。ベルちゃんのことも考えて、災害対策もいろいろ考え始めてるんだよね。

F 対策を、うん、考え始めてるね。

橋 そこのつながりもあるかな？

F 盲導犬協会と必ず連絡っていうか。今までは電話で、やや大きめな地震とかのときは「大丈夫ですか」っていう連絡が来るんだけど、やっぱり電話が使えなくなるかもしれないとか、殺到するとかっていうのもあって、伝言ダイヤルを使う練習も今始まってると感じ。

橋 そうだね。なんか私達って震度5弱ぐらいでは割ともうね（笑）動じなくなってきているけど、でもいつまた大きいのが来るか。まあ集中豪雨とか何があるか分かんないし。

F うんうん、分かんないからねー。

橋 備えられることは考えなくちゃだねーって私も思います。

F 考えておかなくちゃ。

橋 10年保存水とかそういうのがあっても、「あら切れてるわ」ってことにいつの間になっちゃうので。

F うんうん。

橋 家族が増えて。でも当時4歳だった妹ちゃんが、ね？

F そう、高校生になって。

橋 少ししっかりしてきたかな？

F かなり頼りになる、うん。かなり頼りになるから。やっぱり見てもらえる、見て教えてもらえる、理解出来るように伝えてもらえるから、すごく助かってますね、今は。本当に。

橋 成長したねー。

F 成長しました。

橋 いろいろ苦勞しながらねー、頑張ってるね。その頑張りを私も時々知っているの。いつもすごいなーって尊敬する人です。

F いやいや。

橋 息子さんは、震災後はラジオが離せなくなったりとか、それは本人なりの備えてることだし、日常にも必要になってるしね。そのタブレットで、連絡もつくっちゃあつくのかな？

F うん。タブレットで連絡もつくね。携帯電話、ガラケーも持ってるけど、字がたたくさん読めるわけじゃないから、私と同じ音声で出るガラケーを持っていると、例えば地震が起きた時も通知がくる。

橋 そうか、見て分かるんだ？

F 音声で。字が読めないから。

橋 息子さんは、まずピロピロピロみたいな音で来るじゃない？で、あ、来るって。で、お母さんとは文字で、ガラケーのほうとかでやり取りはできる？

F 簡単なメールでやり取りができるのと、地震の情報も音声で、私と同じガラケーで音声で出るから、字は読めないけど、地震の情報の通知が来るから、耳でも聞いて。津波の心配はありません……何ていう情報だったかなー、なんか来るよね、通知がさ。

橋 そうか、そういうのね。来る来る。

F それはガラケーで読んでくれるから、音声で聞ける。メールも音声で、漢字で書いたとしても音声で読んでくれるから。

橋 災害情報もバッチリだねー。今はね。

F うん今はねー、本当に。

橋 いやー、でもそれをそういうふうに使いなせるようになった息子さんがすごいし、そういうふうに必要なやり方とかを学んで、自分に必要なやり方も学んでる気がする。

F そう。ちょうど、私とか主人もそうだけれども、音声がないと使えないことが、息子にも役に立ってるっていう感じ。

橋 素晴らしい。

F これがもし普通で、音声とかが分からなかったら、ちょっとそこに行き着かなかったかもしれないけど、たまたま音声を使ってるから、これ息子にも良いんじゃない？っていうので。

橋 ね。タブレットとかその辺の操作だとか、そういうことでちょっと相談支援専門員さんに助けてもらったりね。

F うん、助けてもらったりしてる。

橋 その辺も支援員さんが、そういう支援のやり方を息子さんに学びつつ、「じゃあこうやってこの家族は情報を取り合えるんだろうな」っていうことも、支援員さんも分かって。

F そう、分かってもらえてる。

橋 結果的にすごく良かった。

F 良かったかもしれないねー。そして行きつけの電気屋さんがあるから、ちょっと分かんなくなるとその電気屋さんに行って。たぶんもう顔なじみ。お母さん目が悪くて盲導犬連れてて、息子もイヤーマフしてるから……。

橋 ケーズデンキ？

F そうそう、ケーズデンキ。

橋 もうお馴染みさんのね（笑）

F お馴染みさんだと思う。

橋 どういうことを聞くの？電気屋さんで。操作？携帯とか？

F タブレットの操作がね、なんか何かが消えちゃったんだけどどういことでしょうか？とか。

橋 それって息子さんが聞くの？

F 聞けない、聞けないの。

橋 それをお母さんがサポートするのかな。

F そうそう。自分では聞けないから、私が「どうやらこういうことを言ってるみたいなんですけど、私は見えないから見てもらえますか？」って言うと……

橋 うんうん、一緒にいて。

F 一緒にいて（笑）

橋 親子もうお馴染みさんのね。

F そうそう、お馴染みさんで。

橋 でもそういうのもいいわー。偉いなー、偉いねー。

F 横のつながりが本当に大事で。

橋 いや、それはでもなかなかね、みんなやらないのよ。こうして出て行って、コミュニケーションとってやっていると、やっぱりあなたは違う。だから新聞に取り上げられるのよ。

F いや……ほんとにね、そんなことで支援員さんと呼ぶわけにもいかないから、電気屋さんとお友達になることが大事だっていうので。やっぱり年に何回か「この間行ったばかりだー」とか思うけど（笑）

橋（笑）

F 「また来たねー、いらっしゃい」みたいな感じで。

橋 でもそれは、困ったことがあって、助けてもらえるところに行って、大丈夫な時にそうやっていて、いざとなったらその人が分かってるだろうみたいなことで。すごいねー、頑張ってるなー。

F みんなに助けてもらってる。やっぱりね、そのタブレットにしても、私も主人も見えないから、見てあげることがなかなかできない。音声で出すこともできるから、音声で分かることは主人もやってくれるんだけど、やっぱり見えないと分からないこともあるから、誰かの目を借りなきゃいけないっていうので、今やっとケーズデンキさんと（笑）近づけて嬉しい。

橋 それも、人に助けてもらうことが当然に生活の中にあるから、息子さんはすごく学べてると思うよ。素晴らしいよ。

F 本当にね、助かる。みんなに助けてもらうことができて助かってるかな。ただやっぱり自分で伝えることができないから、私が一緒に行って代わりに伝えるっていう感じなんだけど。

橋 でも学んでるから、そのうち、それこそ文字でチャットみたいな感じで、彼はタブレットで伝えられるようになるかもしれない。

F なるかな（笑）なるかもしれないねー。

橋 そしたら教えてもらおうかなー（笑）ごめんね、長くなっちゃったけど、最後に医療的なことで、当時息子さんって服薬は何かあったかな？

F あった。喘息があったから、その喘息のお薬を。

橋 お薬は家にあった？

F あった。必ず1ヶ月分をもらってきてたから、薬が切れちゃうってことは無かったから。

橋 その時もある程度はあったんだ。

F あった。そしてしかも独特な飲み方っていうか、粉の薬も水では飲めない子で、食べるの。

橋 オブラートじゃなくて、粉だけでいいの？

F 粉を食べる（笑）食べてましたね。

橋 逆にお水だとむせちゃうのかな。

F そうそう。なんかその当時は、水で飲むことができなかった。

橋 へー。でもお薬があったのは良かったねー。

F うん、良かったのと、そのお薬がたまたま苦くなくて、普段から食べてたから助かりました（笑）

橋 なるほど。水も使わないし（笑）

F 使わないでね。でもお茶が必要、お茶が好きっていうか、味がしない水が飲めない子だったから。

橋 うちもね、息子はお水は苦手だった。

F うん、今もダメ。

橋 すごーく薄くても麦茶とか。

F そうそう。

橋 薄めてもいいんだけど、水は結構苦手だったねー。今は飲めるんだけど。

F 飲める？うちは今もダメで、必ずお茶、色か味が何かついてないとダメ。だから冷蔵庫には必ずポットを2つ。無くならないように次々次々作ってるって感じ。

橋 冬でもちゃんとあるのね。

F 冬でも。

橋 母はちなみにその時はお薬とかは？

F 私はお薬は特に使ってない。

橋 じゃあその時に病院に行けないとか、病院も緊急体制でなかなかみんな行けなかったよね。そういうことで困ったっていうのは無かった？

F うん、無かった。

橋 あと食べる物で、息子さんはその時はこだわりとか、食べられない物が多いとか、そういうのはあった？割と何でも食べた？

F いや、そんなことはないんだけど、食べられる物がある程度決まってるから。

橋 どういう物が食べれるんだろ？息子さんは。

F その時は、お魚、もうシャケを焼いてたのがあったからあれだったけど、炊き出しで運ばれてくるものは、うーん……でもほぼ、ほぼ大丈夫だったんじゃないかな。これ食べられないからもう食べれる物が無いっていうのは無かったような気がする。何を運んできてたかなー。

橋 あ、本当。食べれない物が多くて困るとかっていうことでもなかったんだ。

F なかったかなー。

橋 お水は、薄くても麦茶だったりとかそういうのがあれば大丈夫で、食べる物も、じゃあまあ困ることはなかった？

F 困ることはなかったかなー。いただいた物の中で食べれる物を選んでっていうか。

橋 うんうん。じゃあ主食はお米も、ご飯とか麺とか、何でも？

F そう、ご飯とか麺とかも食べれた。

橋 食料品ではそんなにこだわりとかで困ることはなかったのね。

F なかったかな。うん。

橋 担任の先生が毎日来てくれた時に、だいたい炊き出しの物も毎日持って来てくれた？

F うん、毎日持って来てくれた。

橋 ああ本当。炊き出しだから、炊き込みご飯とかそういうのが多かったかしら。

F なんかね、豚汁みたいなものとか。あと中華まん。

橋 え、汁物も持って来てくれたの？

F 汁物も1回あったような気がする。豚汁みたいなのがあったような気がする。それと中華まんとか。

橋 中華まんとかはありそうだね。

F うん。うち本当に助かることに中華まんは食べれるから（笑）食べれる物がたまたま。肉まんとかそういうのは食べれる子だったから。

橋 良かったー。

F 良かった。逆にあんまんとかだったらちょっとあれだったけど。あんこは食べれないから、あんこじゃなくて肉まんだったから大丈夫だったのかもしれない。

橋 (笑) 良かったー。そっか。食べる物ではそんなに困らなかったのね。

F 困らなかった。逆にその当時は炊き込みご飯とか混ぜってる物がダメだった。でも炊き込みご飯は来なかったよ
うな気がする。

橋 もしかしたら先生が選んでくれてたのかもしれないけどね。

F かもしれない。

橋 分かんないけど。

F 混ぜってる物がダメだった。

橋 今は食べれるの？

F 今は食べれるようになったー。

橋 いろいろ食べれるようになったのかな。

F ね、今は本当に食べれるようになったね。

橋 今は作業所に、B型……A型？

F B型。

橋 B型の作業所に通っていて、お昼はそっちで？

F 週3日はお弁当を持たせて、あと2日は近くのところで自分が好きなものを買ってる。そこの事業所さんの方
と一緒に買いに行って……。

橋 コンビニとかで。

F コンビニとか、あとかまどやか松屋とか、そういうところで買って。

橋 ほっか弁屋さんとかで選んで。

F うん、選んで。

橋 すごいすごい。でも今もし、家族と一緒にいる時はいいけど、息子さんが作業に行ってるあいだに大地震とかが
あったら、連絡は取れるけど、心配は心配だねー。

F そこが今一番心配で、実はちょっと困ってて。前はauの「安心ナビ」を使ってただけど、このあいだ8月いっ
ぱいで終わっちゃったの。安心ナビのサービスが。

橋 そのあと似たようなサービスとかって？

F なくて、結局GPSを使うアプリとかってあるんだけど……

橋 あーそうか、そういうのがすごく増えちゃったから。

F そう、GPSも結局Wi-Fiがつながってるところじゃないと使えなくて、タブレットだと、タウンWi-Fiとかあ
るんだけど、全部つながるわけじゃないから、結局それが今使えてない状態で。

橋 息子さんは見えるけど、共有してもお母さんお父さんが見えないもんね、そのナビ。

F つながれば、最悪娘に見てもらうことができるんだけど。

橋 音声化とかはできるのかな？

F できない。地図の音声化もできないし、誰か見える人がいれば見てもらうことができるんだけど。でもそもそも
そのアプリを入れても、タウンWi-Fiだとダメ、全然つながらない。出かけてるのにずっと家にいっぱなしになって、
結局動いてない。

橋 うーん、じゃあ使い勝手はちょっとダメなんだね。

F 全然ダメなの。

橋 安心ナビが終わって何かほかの方法が見つかるといいね。

F うん、今見つかってなくて。ガラホに替えるかどうしようかっていうのを迷ってて。そのガラホっていうのは、
ガラケーとスマホが一緒になってるようなやつで、それだとインターネットにちゃんとつながる。ただそこで心配な
のが、うちはYouTubeとかを観ちゃうから、ギガ数オーバーして超えちゃう、すごい金額もかかっちゃってもう
……。

橋 そっちのYouTubeのほうの制限が難しくなっちゃうのよね。

F 難しくなっちゃう。

橋 やっぱりみんな観たいから。うちもそうです。

F そこは皆さんどうしてるのかなと思って。

橋 その辺は、今後ちょっと方法を考えたいところだねー。

F そう、考えなくちゃいけない。一応、職場で地震があった時には必ず職場に戻る。

橋 あ、一旦戻るのね。

F 一旦戻る。例えば昼休みにちょっと職場を出たとか、そういう時は必ず職場に戻る。それは職場の方ともちゃんと取り決めがある。そして、もし通勤途中だったりお家に戻る途中であれば、家に戻る。歩いてでも何でも。

橋 うん。

F お昼休みであれば職場に戻る。職場に行く途中であれば、あともうちょっとで職場に着くかもしれないけど、職場に行かないでとにかく家に戻る。そういう取り決めはしてある。

橋 ただもしそうなった時に、判断が……。

F つくかどうかがある。だからその連絡手段として、電話ができるのと、メールでも連絡が取れることは取れるから。

橋 まあでも、電話はたぶんすぐ使えなくなるだろう、つながらなくなるだろうから、メールが今使えるようになってるのは本当にいいこと、安心なことだね。

F いいかなー。ただやっぱりどこにいるのかっていうのをこっちでもキャッチしたいから、その位置情報？

橋 どうしたって外にいれば何か落ちてくるとか、周りがパニックってるとか、やっぱりいつもと違う状況があって、判断に困ることはあるだろうから。

F そうそう。居場所さえ分かれば「動かないで」っていうことも言えるから。どこにいるのかさえ分かればね。あるいは判断がつかなかったら「家に帰っておいで」っていうこともできるから、位置情報はつかみたいなーって思ってる。

橋 そうだねー。これから考えて。それももちろん相談員さんとかいろんな人に助けてもらいながらね。でもそれは今までやってきたから、これからもやっていけることなんじゃないかなと思います。すごい。私がとっても勉強になりました。ありがとうございました。

F こちらこそです。